

子ども参画による地域活動の展開

地域活動支援指導者養成研修会

日時：平成25年9月12日（木）

会場：宮城県大崎合同庁舎504会議室 参加者47名

<趣旨>

講話や実践発表などを通して地域活動支援についての理解を深めるとともに、地域活動のサポートやコーディネートができる人材の養成を図る。子どもの遊びや体験活動の場が少なくなっている現実を踏まえ、体験活動の場づくりに関する研修会を実施する。

事例提供 色麻町「こどものまち」

発表者:色麻町協働教育プラットフォーム実行委員 小川 きょう子 氏

講演 「子ども参画!子どもが育つ空間づくり」

講師:(有)プランニング開 代表 新田 新一郎 氏

【こどものまちとは・・・】

子どもたちが主役となって、一つの“まち”をつくります。その中で子どもたちは、就業し、生産活動、消費活動、納税、自治活動等を体験しながら、社会全般の営みを学んでいきます。また、活動を通して社会を構成している他世代のまちの“住人”とコミュニケーションを図り交流を深めます。

子どもたちの思いが反映されていくと、“こどものまち”は時間の経過とともにその姿を変えていきます。自分たちの手でつくる居心地のよい場所、それが“こどものまち”なのです。

【おらほはおらほでいんdegas】※自分(達)は自分(達)でよいという意味の方言

講演の中で新田さんは、子どもたちの「自己肯定感」が高まるような空間をいかに作り出すかという視点でお話をされました。

自身のジュニア・リーダーの経験を踏まえ「他者から認められる」ことの意味の大きさを熱く語り、「おらほはおらほでいんdegas。」と胸を張って言える人間（東北人）を育てたいという思いが伝わってくる講演となりました。



【参加者の声(一部抜粋)】

○様々な教育観がありますが、学力も社会力（ソーシャルスキル）も親や大人の関わりが大切だと思いました。子どもの心に火を灯すのは我々大人の大事な役割だと感じました。（40代男性）

○子どもが自己肯定できる教育が求められているということに深く共鳴しました。（50代女性）

○地域を支える存在として「子どもの参画」が大切。それを引き出すために社会教育（子ども会やジュニア・リーダー活動、地域活動）の役割が大きいとあらためて感じました。（50代男性）